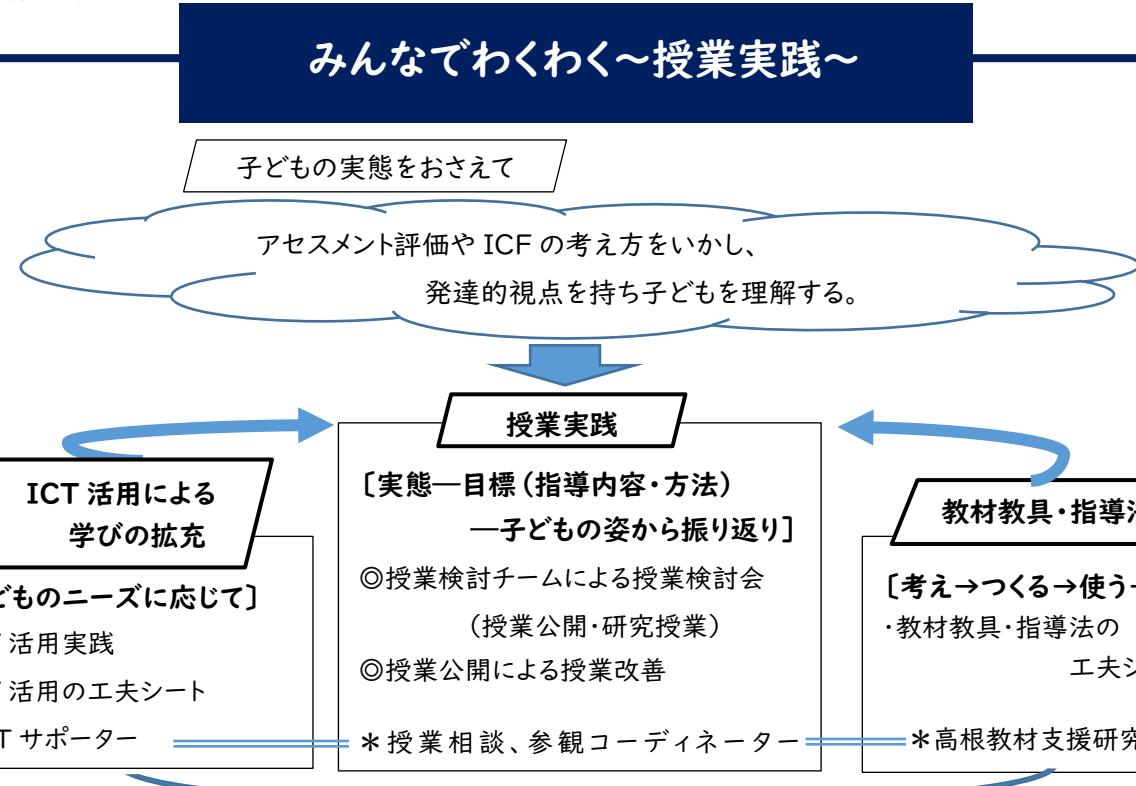


<令和6年度 研究テーマ>

みんなで創る授業

～子ども理解を土台とした授業改善～

研究スタイル



<実践と理論の往還> つくる・つたえる・つなぐ <協働的な学び>

みんなが深まる・広がる ～研修・自己研鑽～

- ◎授業力向上や子ども理解等に
関わる研修を行う
 - ・授業改善研修会
 - ・夏の公開研修会
 - ・さがちゅうゼミ(自主研修会)等
- ◎自己研鑽を支える環境の充実
 - ・NISE 学びラボ(講義配信)視聴
 - ・過去研修会 DVD の閲覧
 - ・ポスター等掲示物による情報共有

みんなをつなぐ ～中央支援スタンダード～

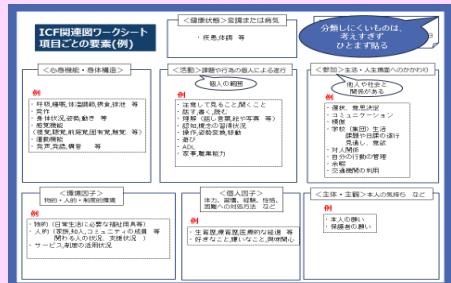
- ◎指導のつながりを意識し、
共通理解して取り組む
 - ・統一シンボル
 - ・統一サイン
 - ・フロントゼロ
 - ・教室内の環境整理
 - ・右側通行
 - ・手順書
 - ・水泳学習進度表
 - ・UD フォントの積極的使用

<今年度の取組み>

みんなでわくわく～授業実践～

子どもの実態をおさえる

的確な実態把握につなげるため、アセスメント計画（＊別冊）に基づきアセスメントを実施している。今年度は、アセスメントをとりやすいよう記録表の作成や実施するための用具等をセットにした。（MEPA-RとCLISP-d d（トップダウン））



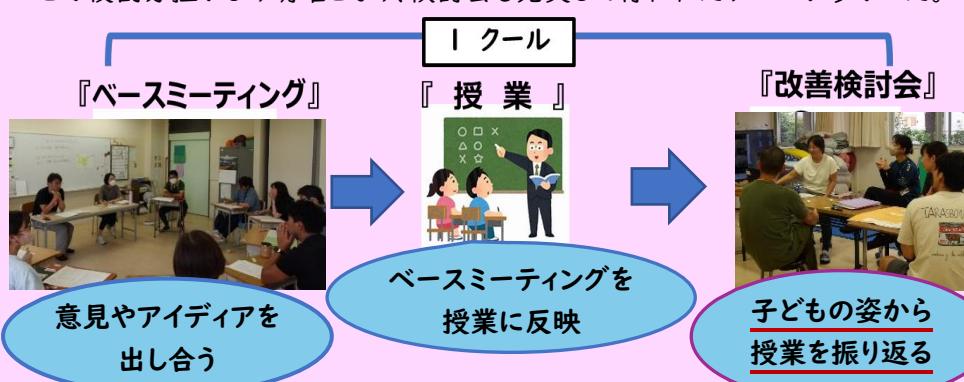
「ICF関連図」を指導集団で作成し、子どもの実態把握、共通理解を図ることができた。項目に入る事柄を例示したことで、ワークシートへの分類がスムーズに行われた。



授業実践 【実態一目標（指導内容・方法）—子どもの姿から振り返り】

<授業検討チームによる授業検討会>

授業者のみでは気づくことのできない視点からのアイディアを出し合う、聞き合うことを通してチームでの学び合いをねらいとしている。今年度は18チームで、年間を通して49の授業に対して、授業検討会（ベースミーティング、改善検討会）を行った。進行役については「進行役シート」を活用することで役割分担がより明確となり、検討会も充実して行われたチームが多かった。



<実践の発信、共有、学び合い>



授業を公開し参観者からコメントを受けることで、自身の実践を見直した。また、授業、指導に関する自由研究では、自分でテーマを決めて取り組んだことを形（ポスターやレポート）にすることができた。



指導案や参観コメントをまとめたファイルをいつでも閲覧できるようにした。対象授業については、映像を視聴できるようにした。参観できなかった場合に後日視聴し、大変参考になったという意見があった。

教材教具・指導法の工夫

<高根教材支援研究室の活用>

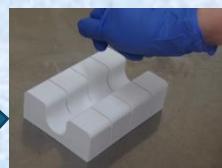
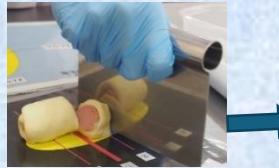
考えを一緒に実現していく教材制作支援により、子どもたちの「自分ででき
た」「やってみたい」を引き出す教材づくりができた。



3D プリンターの導入

3D プリンターの導入により、教材制作の幅が広がっている。

パン生地を
つぶさずに
切るためには…



スイッチ

Bluetooth マウス

<「教材教具・指導法の工夫シート」「ICT 活用の工夫シート」の作成、共有>

「教材教具・指導法の工夫シート」等にまとめることで、自身の実践の確認ができ、お互いの授業の参考にもなっている。夏休み期間には「教材教具展示」を行い、教科・領域ごとに多くの自作教材を展示した。



ICT 活用による学びの拡充 ~子どものニーズに応じて、端末活用の様々な活用を探る~

校内実践報告会(2月4日)で、端末活用の実践 6 例の報告を行い、情報を共有した。

対象	報告した活動内容	使用機器、アプリ等
中学部肢体部門	・自分で好きな動画を選び再生する ・自分でシャボン玉を飛ばす	iPad、i+Pad タッチャ―、スイッチ Keynote、MaBeee
小学部知的部門	・物の名前をおぼえよう (主にイラスト、文字、音声のマッチング)	iPad、DropKit
聴覚部門中学部	・課題の配信と提出 ・学習計画表の作成と活用	iPad、Google クラスルーム Google ドキュメント、スプレッドシート
高等部肢体部門	・年賀状を作ろう(イラストを二択からえらぼう) ・コミュニケーションツール(発表場面) ・コミュニケーションツール(振り返り) ・個別学習	Chromebook、Google スライド Google ドキュメント(音声読み上げ) えこみゅ もじあそび、ローマじチャレンジ
高等部知的部門	・コミュニケーションツール(自分の意見表出) ・資料をまとめて発表する ・共同作業でポスター制作	Chromebook、Padlet Google スライド Canva
小学部肢体部門	・振り返りを通して自分の気持ちを考え、 伝えよう	iPad、DropTap、Keynote、 えにっき



みんなが深まる・広がる ~研修・自己研鑽~

全体で行う授業改善研修会、希望者が参加する夏の公開研修会等を実施し、授業力向上や子どもも理解につなげることができた。



研修会名	実施日	講師及び講演内容
授業改善研修	5月 7月17日 8月26日 8月27日	①水泳指導研修会(各学部・部門で実施) ②「ICF 関連図作成」 ③ICT 活用研修会<講演会> 講師:筑波大学附属桐が丘特別支援学校 和久田高之教諭 「一人一台端末時代におけるICT活用—ICT“ありき”からの脱却—」 ④ 視機能講演会 *ケース検討(6月、7月) 講師:慶應義塾大学 自然科学教育センター 大貫二三恵 氏(視能訓練士) 「障害のある子の見え方理解のために」
聴覚障害理解 研修会	7月25日	<講演会> 講師:元鎌倉女子大学児童学部児童学科 准教授 斎木信也 氏 「バーバルな世界からノンバーバルな世界へ～聞く言葉、見る言葉、触る言葉～」
他部門紹介研修	8月26日	訪問教育および聴覚部門の教育の概要や実践について

夏の公開研修会(5講座) 7月26日	
「点字を学ぶまでに身につけておきたい力」	横浜市立盲特別支援学校 杉山節子教諭
「いろいろな用具を使った体つくり運動」	森田みゆき教諭、笹野かなよ教諭、 星 萌花教諭
「ろうの世界(聞こえない世界)へ ようこそ」	下村宏亮教諭
「ぎんがボッチャ体験会」	神奈川県ボッチャ協会、石田真大教諭、高橋茂和教諭
「かんかくかくかくしかじか子どもの行動の根っこは感覚?」	前田智恵子教諭(OT)

【さがちゅうゼミ(自主研修会)】

*肢体不自由児・者への介助支援について

- ①触り方～移乗
- ②緊張ヒストレッチ(1)
- ③緊張ヒストレッチ(2)
- ④ポジショニング



*陶芸教室

～土に親しみ、形づくりにチャレンジしよう!～



みんなをつなぐ ~中央支援スタンダード~



子どもたちが戸惑うことなく学び続けることができる環境つくりのため、学校全体で指導のつながりを意識し、共通理解して取り組めるよう、活用を進めてきた。

《スタンダード》

- ア 統一シンボルを使用した日課カードによるスケジュール提示
- イ 統一サインをコミュニケーション手段として活用
- ウ 教室の前面や室内の環境整備及び校内の環境整備
- エ 水泳学習進度表による適切な課題設定に基づく水泳指導
- オ 「手順書」の活用と充実
- カ UD フォントの積極的な活用

今年度までの視機能研修で学んだ『子どもの見え方を理解することや視環境を整えることの大切さ』を常に全教員で意識していくよう、令和7年度の<スタンダード3>教室環境整備に、「視環境を整える」「姿勢を整える」の内容を加えることとした。

